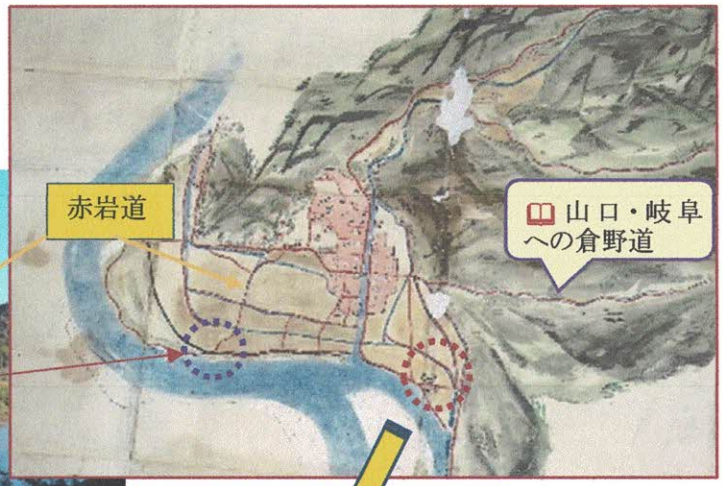
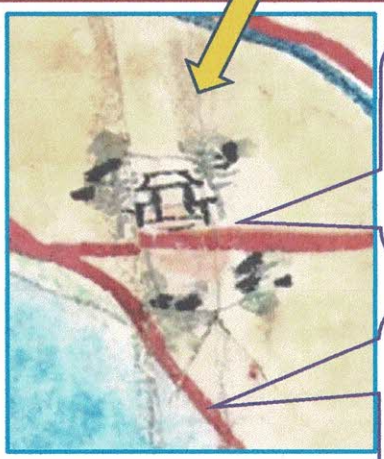
木知原の今昔！

59号：25・3・21





墓の中央を街道が横切っている珍しい配置である。松が南北に画かれており当初からの造りと思われる。

大川通
・現在は水流域であるが江戸期は両サイドに秣場があった（前号で紹介）

木知原の集団墓地

木知原最初の集団墓地は上写真の「**大藪跡**」辺りにあったが慶安3年（1670）の大水で流され、現在の場所に移されたと思われる。

江戸時代後期の「木知原居宅図」に現在の墓が画かれている。釈迦弥陀堂と大きな松の木4本が墓の歴史を物語っている。

「**はやく松の木の下へ行きたい**」と“**お墓＝松の木**”のイメージもあった程であるが平成年間に4本とも松くい虫で枯れる。

お墓事情あれこれ

・墓を話題にすることは・・・と思うが、「歴史の観点」から少し触れてみました。

墓の歴史も諸説あるが

庶民が「**先祖代々の墓石**」を建てるようになったのは江戸元禄（吉良邸討ち入り）の頃からである。この頃から“家名は代々続くもので“子孫が「**家の墓**」を永遠に守る”との思想が広まったからである

それまでは木製で**個人用**の供養塔「**卒塔婆**（そとば）」を立て“朽ちれば（約3年）死者も忘れ去られる“と言う「**無常**」の思想であった。

そとば

木知原では、昭和の末頃から平成にかけて「**家の墓**」が急に増え始め今に至っている。

「**家の墓**」は誰かに命じられたものでなく“**気付けば多くの家が「先祖代々之墓」を建てていた**”という**無意識思想**からで、**墓参り**もいつという決まりは無いが無意識のうちに慣習が定着している。

・・・・江戸「武家」の墓事情・・・

武家は江戸時代の早くから「**先祖累代之墓**」を建て大切に守り続けてきた。

武家の石高（収入）・役職・地位の全てが自分の努力では無く、名前も顔も武功も知らない200年以上も前の“**先祖のおかげ**”で決まっていることから、先祖や菩提寺を大切にして子孫に引き継ぐのが武家の墓文化であった。

年間収入の**3分の1**が先祖や家を守り続ける費用に充てたというから如何に**家柄格式**を重んじたかが伺われる。但し神社には意外と淡白であったとのこと。

“川の字”か“個室”か

・日本は武士も庶民も「家が単位」で親子の**タテ文化**
・欧米は「個人が単位」で夫婦の**ヨコ文化**
♥その無意識慣習の違いを
・「日本は親子が**川の字**で寝る」「西欧では夫婦はWベット・子は**個室**で寝る」と、言い得て妙。ウマイ!!